

要 望 書

藤枝市行政施策に対する要望について

平成22年8月

藤 枝 商 工 会 議 所

藤商工議発第569号

平成22年8月19日

藤枝市長

北村正平様

藤枝商工会議所

会頭 富澤静雄

当商工会議所の事業運営につきましては、平素より格別のご支援・ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

当商工会議所では、藤枝市行政施策および予算編成等に関する要望を以下のとおり取りまとめましたので、これら事項の実現について強く要望します。

尚、例年どおり文書によりご回答いただければ幸甚です。

1. 現東名高速道路新インターチェンジの早期実現

東名高速道路の焼津・吉田間のインターチェンジ新設については、昨年 5 月に候補地が決定し、設置に向けた調査を行なう段階であります。

新インターチェンジの設置は、富士山静岡空港の開港にあわせ、志太地域の重要な流通拠点として期待されており、志太地域の経済発展に大きく寄与するものと確信しております。また、予想される東海地震等、災害発生時の緊急避難・輸送ルートとしても重要な施設となるものと考えられます。藤枝市をはじめ、焼津市、静岡県等関係する機関が協調していただき、早期にインターチェンジが完成することを要望します。

2. 富士山静岡空港へのアクセスとしての志太中央幹線の整備促進

藤枝地域から富士山静岡空港へのアクセスとして、志太中央幹線が大きく寄与するものと考えられます。また、藤枝市内の南北交通の渋滞緩和のためにも志太中央幹線の整備は喫緊の課題であります。静岡県や関係機関と連携を図り、天王町以南の未着手区間について早期に整備されることを要望します。

3. 中心市街地活性化事業・文化センター街区再開発の推進

藤枝駅周辺の中心市街地活性化事業については、市当局のご尽力により着々とその進展が図られています。特に駅南側では、大型店舗の進出が続き、地域あげてのソフト事業などにより、賑わいが創出されてきているものと評価しています。

しかしながら、駅北側においては、いくつかの開発構想はありますが、具体的な事業化には至っていないのが現状です。中でも、藤枝市が最大地権者であります文化センター街区の再開発については、その成り行きに駅北全域の関係者が大きな関心を寄せています。駅北地域全体の市有施設の総合的土地利用の検討を踏まえた藤枝市のリーダーシップの発揮による事業の前進を要望します。

4. 学校・家庭等日常生活における緑茶の愛飲拡大

本県は、全国で最も茶に縁の深い県であります。飲み物といえば、緑茶が定着し、多くの県民は茶に親しみ、日常生活の中に茶は溶け込んでいるといっても過言ではあ

りません。

しかし、最近の県民の緑茶の消費量を見ると、大変残念な統計がでております。一般世帯の1年間の茶葉購入量が、1Kgを下回り、900g台にまで減少しているという統計が出ております。

若い世代に聞けば、急須のない家庭もあると伺っています。

緑茶は、香り、味が芳醇であるばかりでなく、昔から健康飲料であり、消費量の減少は大変嘆かわしい事態であります。

若い世代の茶離れの習慣は、その子供にも連鎖され、ますます県民の茶離れは加速されることが危惧されます。

そこで緑茶の愛飲を若い時から定着させるため、学校や家庭での緑茶についての学習などの取り組みをしていただきたく要望します。

5. 公共事業にかかる地元業者の積極的活用

現下の不景気の中、市内の商工業者の経営状態は大変厳しい中におかれています。地域産業を育成する見地からも、藤枝市の発注する、公共事業、物品購入、役務の調達、委託業務等について、市内業者の一層の優先的活用を願いたく要望します。

6. 蓮華寺池公園と西高跡地の一体的活用と経済効果

蓮華寺池公園と西高跡地の一体的活用については、平成22年3月31日に藤枝市長に要望書を提出いたしました。要望内容については、当然、商工会議所もお手伝いすべき事項もあります。特に、西高跡地の活用については、市と十分協議しながら、商工会議所も検討してまいりたいと考えておりますので、市当局のご指導をお願いします。

7. 白藤の滝の周辺整備と観光資源としての活用とPR

葉梨北方の白藤の滝は、民間の地域住民の努力により、藤の植栽や景観整備が行なわれ、隠れた景勝地として、藤の季節のほか夏の避暑地としても、毎年訪れる人が増加しています。

この白藤の滝を観光資源として活用するため、周辺のアクセス道路、駐車場整備を行うとともに葉梨西北活性化施設「白ふじの里」と合わせた内外へのPRを提案します。

8. サッカー情報の発信

本市は、サッカーのまちとして全国に名前が行き渡っており、7月の全国自治体職員サッカー選手権大会では藤枝市役所チームが見事に優勝を飾りました。毎年、ジュニアからシニアまで全国規模のサッカー大会が市内で開催されておりますが、藤枝市のサッカーに関する情報は十分市民に届かない状況であります。

については、ホームページやポスター掲出などにより、サッカーに関する情報が迅速に発信するような仕組みづくりに取り組まれることを提案します。

9. 安全・安心なまちづくり 繁華街の安全確保

藤枝市は、中心市街地の活性化事業の展開により、藤枝駅周辺において、遊樂施設の進出が進み、急速に繁華街が形成されてきております。これは、都市化の中で見られる傾向であります。一方では夜間における治安の面で課題も生じてきております。市の中心部が安全で安心して楽しめる繁華街であるよう、関係者がさまざまな立場から取り組まれるよう提案いたします。

10. 適切な土地利用の推進について(商業系土地利用の誘導と利用促進、企業立地をすすめるための工業系土地利用の推進)

商店街の衰退が懸念されております。これまで店舗が連続して形成されてきた商店街が、個店の閉店により、商業用途の土地が住宅用地や空き地となって、再び商業用地として活用されない事例が増加しており、商店街の衰退に拍車をかけています。商業用地がいつまでも商業施設の土地として利用されるよう、何らかの措置について検討していきたく提案いたします。

志太平野は、富士山静岡空港が開港し、また現東名高速道路に加え、新東名高速道路の開通を間近に控え、交通網の整備が急速にすすんでいます。こうしたインフラの

整備により、藤枝市へ進出しようとする企業の打診は多いと伺っています。

しかしながら、企業用地として受け入れる用地は乏しく、企業進出に応えられないのが現状です。税収また雇用創出などの面で、企業誘致は大きな課題であります。工業系の土地利用をより一層進められるよう要望します。

11. アスベスト対策と溶融炉の整備(民間あるいは第三セクターによるアスベスト処理施設の整備)

昭和50年代以前に建築された建物の建替えの時期がきています。これらの建物の中には、アスベストが使用されたものが少なくなく、その扱い件数は増加しています。少しでもアスベストが付着した廃棄物の処分は法に基づく方法で処理しなければなりません。しかし、近隣には処理施設はなく、県外の施設に搬送し、処分を委託しているのが現状で、多くの解体業者は苦慮しています。

行政の調整により、第三セクターなどの方法による産業廃棄物、特にアスベスト処理施設の整備を検討していただきたく要望いたします。

12. クリスマスイルミネーション事業の取組み

毎年11月下旬から1月上旬にかけて、藤枝駅の北口・南口広場をはじめ、駅周辺の商店街には、クリスマスイルミネーションの飾り付けが行われ、賑わい創出の演出がされております。

平成22年度もまちづくり交付金などによる藤枝市から商店街への補助金で事業が実施される予定と伺っておりますが、藤枝市補助金が減額傾向にある中で、平成23年度以降の事業継続が危惧されます。特に藤枝駅の南北の駅前広場は、本市の玄関口となる公共空間でありますので、藤枝市が事業主体となり取り組んでいただきたく要望します。

13. 「エコアクション21」の認証取得にかかる推進策

事業所が自ら取り組む環境対策行動計画である「エコアクション21」の認証取得をすすめるため、新規取得及び更新費用の助成制度の創設と入札審査評価点の更なる

加点を要望します。

14. 瀬戸川堤を桜の名所に

瀬戸川の両側堤は、桜が見事な大木に成長し、春の開花時期は県内外からの多くの桜見物の観光客により1週間以上にわたり賑わいます。しかし各地のソメイヨシノを観察すると、50年以上を経たものの中には、老朽化がはじまり、樹力が劣化してきているものが見られます。しかし反面、100年近くを経ても旺盛な桜も見受けられ、この違いは肥培管理の差であるといわれています。

金比羅山・瀬戸川堤をいつまでも県下有数の桜名所として残すため、官民一体となった愛護活動を提案します。

15. 藤枝駅における情報発信

藤枝駅を中心とした中心市街地活性化事業の進展に伴い、藤枝駅の乗降客や南北自由通路の利用者は増加してきています。こうした藤枝駅の利用者にさまざまな行政情報や観光情報、イベント情報を発信していくことが地域の活性化に効果的であります。南北自由通路や、乗降口壁面を活用した情報発信について、JR側と協議していただきたく提案します。

以上